

依田新 波多野完治 監修  
鈴木清 波多野勤子

「児童心理学の進歩」

一九六二年版について

津守 真

まず第一に、これは非常に高度の学術書であるということをおこななければならぬ。しかも、児童心理学の専門家はかならず持っていなければならぬ書物である。幼児教育は児童心理学とは切りはなせない関係にあるから、保育学、幼児教育を専攻する者にとっては必須の書物と言える。ただし、実際の保育的関心からは、やや縁遠く、また非常に高度の知識を要するから、一般の実践家には不向きかもしれない。

これは、一九五九年から一九六〇年にかけて、日本の研究者によって行なわれた、児童心理学の研究の総括的な紹介である。アメリカで出版されている書物に、アニユアル・レビュー・オブ・サイコロチーというのがあって、毎年、心理学の領域でなされた研究を、いくつかの分野にわけて、その概略を紹介している。最近のように、学問研究が多くと、研究者により活発に行なわれるようになって、その成果を消化することは、第一線の研究者にとっても容易なことではない。しかも毎年の積み重ねを整理してゆかなければ研究の無駄も多くなる。このアニユアル・レビュー

は、アメリカでは博士課程の学生が勉強する虎の巻になっていく。日本でも、学問的な研究の量は外国に比して劣っていないし、質的にもかえって優れたものも多くある。それなのにこのような総括的な紹介書がないのは残念だと思っていたところ、波多野先生などの肝いりで、児童心理学の分野で、それが実現したことは実にうれしいことである。一つのことごとく研究が出ることも重要であるけれども、こうした完璧な文献紹介集が出ることは、児童心理学の進歩に貢献することはきわめて大きいと思う。

幼児教育、幼児保育の分野は、従来、とかく程度が低いものと見られがちであった。しかし、この分野も学問的に発展してゆかなければならない。それには学問的基礎が必要である。その意味で、本書のような書物は、保育学、幼児教育学を進展させるのに重要な役割を果たすと言いたいのである。

今後、毎年、新しい年の研究が紹介されてゆき、第二巻、三巻の発行も間近のとき、つづいてゆくことを願っている。はじめに述べたように、幼児保育学を専攻する方にはぜひおすすすめしたいし、実務家の中にも、この程度の書物をおよみなす人がふえてくれれば、幼児保育の分野も、きつと向上すると思う。  
(金子書房 一、二〇〇円)

幼児の教育 第六十二巻 第五号

五月号 © 定価六〇円

昭和三十八年四月二十五日 印刷

昭和三十八年五月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いたします。